

関

全日本石州流茶道協会

第二十八号

平成三十年五月

2018

伊達政宗公生誕四五〇年を記念して



石州清水流十四代家元

清水道玄

県内各地で開催されました。

当流初代清水道閑（二五七九〜一六四八）は、師匠の古田織部（二五四三〜一六一五）や兄弟弟子の小堀遠州（二五七九〜一六四七）の推挙により政宗公の茶道頭として召し抱えられたこともあり、記念行事のいくつかに関わらせていただきました。

七月十六日、地域の歴史・民俗・文化・自然を学ぶNP

〇法人ボラリスが主催して、「とことん味わう江戸時代の^{おおくた}大條家ゆかりの茶室」と題する勉強会が亘理郡山元町で開催されました。かつて仙台北内にあり、幕末に藩の重臣であった大條家へ下賜された茶室が東日本大震災で破損し、復旧活動が地元で展開されており、その支援のため、「仙台北藩と石州流茶の湯」に関する講演と呈茶を行いました。

伊達政宗公は元禄十（一五六七）年八月三日、米沢城にて誕生しました。この年は織田信長が稲葉山城を攻略して美濃を支配下にした年で、毛利元就、北条氏康、武田信玄、上杉謙信など実力を備えた武将が活躍する戦国時代の真っ最中でありました。成人した頃には、既に天下の体制が豊臣秀吉の手によって整いつつあり、仮にもっと早く誕生していたら、違った戦国時代になっていたともいわれております。

昨年（平成二十九年）は政宗公の生誕から四五〇年の記念の年であり、仙台北藩を築いた政宗公の戦国大名としての政治・軍事面での活躍はもとより、現代に繋がるインフラ整備や、大名同士の交際に欠かせない茶の湯・和歌・能楽等の文化・教養の巧者としての側面等、一六三六年に没するまでの数々の功績や生き様を再確認するイベントが宮城

九月十日に開催さ

れた公益社団法人宮城県芸術協会茶道部研修会においては、約二百名の参加者一同で政宗公へ献茶を



伊達政宗画像 狩野安信筆
仙台市博物館蔵

く大條家ゆかりの茶室く 『宮城県山元町徳本寺での茶会』



石州清水流

白木岳齋

一 はじめに

山元町は宮城県最南端で福島県相馬地方と隣接する海岸沿いの町です。江戸時代藩政の頃仙台藩の対相馬藩最前線の城下町で、明治維新まで大條家が治めていました。

「大條家ゆかりの茶室」は天保三年（一八三二）大條家十五代道直様が功績により仙台藩十二代斉邦公から下賜された茶室です。伝承によると、太閤秀吉より伊達家が拝領した茶室です。

大條家では当時の仙台城下の屋敷内にその茶室を移築しましたが、明治・大正を経て昭和七年に大條家がかつて治めていた山元町に移築され町指定文化財に登録されました。町の方々は茶室や庭の花々を大切に茶会などを楽

しんでいましたが老朽化も進んで、なんとかせねばと皆様が考えていた時に、突然襲ったのが「3・11東日本大震災」でした。茶室は無残な姿に損傷。町の復興事業も生活優先で現在は写真のような状況で、見学した時は茶の湯を嗜む者にとり涙の出る思いでした。



「大條家ゆかりの茶室」の現状

二 山元「いっ茶」組との出会い

藩祖政宗公以来の茶の湯文化・歴史を伝える建物としての「茶室」を修復保存と活用をしようと活動しているのが「いっ茶」組です。この組と地元のNPO法人ボラリスが協同で企画した勉強会『学ぼう。山元のすごい歴史』の第三回で大條家ゆかりの茶室に焦点を当てた勉強会が計画され、仙台藩茶道を継承している石州清水流家元清水道玄

ましたが、明治・大正を経て昭和七年に大條家がかつて治めていた山元町に移築され町指定文化財に登録されました。町の方々は茶室や庭の花々を大切に茶会などを楽

に歴史の講話とお点前披露の依頼がありました。

勉強会は、七月十六日猛暑の中、大條家の菩提寺である山元町徳本寺を会場に実施されました。

講師は四名で大條家菩提寺の早坂住職、茶室を調査した山形大学永井教授、地元で民話を伝承している庄司アイさん、家元清水道玄でした。

三 講話とお茶会

家元の講話は、初代清水道閑が政宗公に招聘されて茶道頭に召し抱えられたことや二代動閑が藩命により当時柳営になりつつあった石州の茶の湯を大和小泉で十三年間修行して仙台藩の茶道を石州清水流とした話などをされました。約八十名の参加者は政宗公時代の話に興味津々で真剣に聞いていました。

お点前披露は二回に分けて各約四十名に薄茶を差し上げました。陰点でのお茶をお客様に運び出したのは、地元NPO法人ボラリスの仲間です。障害を持った子供たちですが、一生懸命に活躍する姿は目をみはるものがありました。お疲れさまでした。

床の間には、家元の計らいで『萬寿無疆』を飾りました。

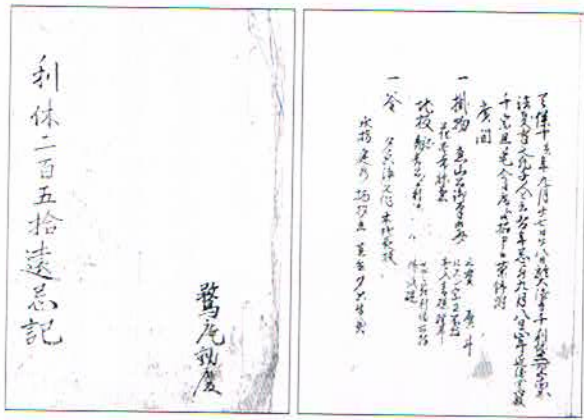
が協同で企画した勉強会「宇ぼう・山元のすごい歴史」の第三回で大條家ゆかりの茶室に焦点を当てた勉強会が計画され、仙台藩茶道を継承している石州清水流家元清水道玄

この軸は仙台藩十三代藩主慶邦公から清水家が拝受したもので慶邦公の直筆です。慶邦公は戊辰戦争時に終結に向けて苦慮し、公の命により会津和平の建白書を持って江戸や京都までも奔走したのが大條家十七代大條孫三郎道徳で、「大條家ゆかりの茶室」を愛用した人物です。そのようなエピソードを思い起こして参会の方々にとっても興味のある掛け軸でした。

四 大條家と清水家との接点を発見

大條家は明治五年、前出の道徳の時に戊辰戦争の戦後処理の功績により「伊達姓」を復して、伊達宗亮と改称しました。余談になりますが、その宗亮から四代後の子孫に「伊達みきお」氏がいます。今大人気のサンドウィッチマンのその人です。

仙台藩志会現会長の大條伊達二十代伊達宗行氏は伊達宗亮の後裔で日本物理学会の会長をされた物理学者です。「大條家ゆかりの茶室」を主題とした勉強会茶会をやらせていただいた報告に道玄家元に同行して伺った際、同家所蔵の古文書を拝見させていただきました。それは驚庵動慶（石州清水流九代動慶）が天保十年（一八三九）九月京都大徳



表紙

全12頁の内1頁

寺で齋行された利休二百五拾遠忌茶会に参加した時の床飾りや使用された道具、料理まで列挙した文書で、推測ですが九代動慶が大條家の殿様に帰国報告したものだと思われる。ご丁寧な伊達宗行氏がコピーを用意してくださり家元が頂戴いたしました。読み下しは、現在仙台市博物館に依頼中です。判読したならば改めて「関」にて報告したいと考えています。

「大條家ゆかりの茶室」が取り持った思いがけない歴史の発見でした。

五 あとがき

「大條家ゆかりの茶室」は、仙台藩の茶の湯文化を今に伝える大切な遺構であります。東日本大震災で多くの歴史にも価値のある建物などが失われました。なかでも茶の湯文化を伝えるものは震災前からも少ないのが実情でした。私たち茶の湯に携わる者としてもこの茶室が東日本大震災の被害から復興してかつての茶会開催や地域の方々の楽しみの場となるように全国の石州流茶道にかかわる皆様方の応援を心からお願ひ申し上げます。

参考資料

- 河北新報 平成二二年七月六日号
- 〃 〃 平成二九年二月七日号
- 〃 〃 五月十日号
- 徳本寺寺報 平成二八年三月号
- 〃 〃 平成二九年三月号

山元歴史民俗資料館

大條家ゆかりの茶室物語



会場の様子(1)



会場の様子(2)



徳本寺でのお点前披露



床の間の掛け軸「萬寿無疆」